

令和２年度第１回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会（書面開催）概要

- 開催方法 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面開催
- 開催時期 令和２年４月２２日（水曜日）から令和２年６月１０日（水曜日）
- 委 員 岩動委員長，佐藤副委員長，真壁委員，田中委員，高橋委員
- 議 事 令和元年度区民協働まちづくり事業企画事業の事後評価

【議事概要】

区民協働まちづくり事業に関する要綱（平成１４年３月２５日市長決裁）第６条第２項第２号の規定に基づき，令和元年度企画事業実施団体から提出された「仙台市泉区区民協働まちづくり事業（令和元年度分）実績報告書」に関し，別表４「仙台市泉区区民協働まちづくり事業（令和元年度分）評価結果」のとおり各事業の評価を行った。

【質疑応答】 [Q：質問 A：回答]

● ニュースポーツフェスティバル

Q１：ニュースポーツフェスといきいきフェスの費用詳細はどのようなになっているのか。

A１：別紙「令和元年度ニュースポーツフェスティバル収支決算書」をご覧ください。

Q２：いきいきフェスのペタンクとグランドゴルフの参加者で重複している人はいるか。

A２：ペタンクの終了後にそのままグランドゴルフを行ったため，大体重複していた。

● 泉区文化祭

Q１：若手の参加が問題点となっているが，現在の参加年齢層はどのようなになっているか。

A１：参加者の年齢層については，集計を行っていないため不明だが，当文化祭は昭和５５年から開催しており，年々会員の高齢化が進んでいる。その対策として，平成２５年度から大学連携事業により東北生活文化大学から展示・ステージ等で協力をいただき，令和元年度には，４大学より参加協力を得た。今後も若い世代での参加に向け，新たな会員の掘り起こしと併せて大学との連携を深めてまいりたい。

● いずみ朝市

Q１：令和元年度に対して，令和２年度の生産者の参加状況増減はどのようなになっているか。

A１：令和元年度は１７店の参加に対し，令和２年度は１８店の予定である。

● 地域子育て交流会

Q１：１０月３０日実施の「おやこフェス」の参加者数は何人か。

A１：来場者２９９人（内訳 大人１４３人，子ども１５６人），スタッフ４４人である。

【評価委員からの意見等】

① ニュースポーツフェスティバル

- ・ 泉区民ふるさとまつりを盛り上げる事業の一つとして評価できる。継続していくために工夫をしてほしい。
- ・ 用具の修理については、今後も継続的な課題である。参加者全員で負担できるか検討が必要ではないか。
- ・ グランドゴルフへの切り替え検討とのことで、来年の方向性や参加者が増えることを期待する。
- ・ 審判への謝金についても、参加者からの参加費収入などで賄うなど徐々に検討が必要ではないか。
- ・ 目的がほとんど達成に繋がっていないので、目的を具体的に再設定されてはどうか。
- ・ まつりの同日に同内容実施がマンネリ化している。これまでの先入観をなくし、目的達成のための事業再構築が必要な時期だと思う。

② 泉区民文化祭

- ・ 活動の幅を大学にも呼びかけて広げるなど、工夫が見られる。
- ・ 入場者アンケートなどを行い、入場者の年齢層、文化祭に求めることなどを聞き、今後の継続的な開催に生かしてはどうか。
- ・ 大学間の交流に期待する。
- ・ 目的の「手作り文化祭」「次の世代に伝えていく」をどこまで意識できるかによって、今後の事業の在り方が変わってくると思う。関係者の方々だけでなく、いかにして一般市民が参加できる運営にするか工夫が必要だと思う。また、大学生は地元出身の割合が半分以下と思われるので、高校生以下の参加の方が長い目で持続性があると思う。

③ 将監沼ふれあい事業

- ・ 整備がいき届き、区民憩いの場として、利用しやすくなっていることを実感する。
- ・ 将監沼、風致公園をフィールドに自然環境の保全、地域のコミュニティ形成、子育て支援など、多面的な活動を行っており、今後もぜひ継続していくようバックアップしていければと思う。住民自身が世代交代や活動費の獲得の努力を続けていけるよう、専門家やスーパーバイザー等の支援者が必要ではないか。
- ・ 若者が参加出来るような取組みをお願いする。
- ・ 地域の環境保全に大変尽力されていると思う。一人ひとりの負担を減らすために、いかに次世代の会員を増やせるかが必要かと思う。子育て世代を巻き込んで参加していただくために若い方の意見を取り入れながら様々な取組みに挑戦してほしい。

④ いずみ朝市

- ・ 一昨年度より昨年度の来場者が増加するなど、今後も工夫して楽しい市の開催を期待する。
- ・ フェイスブック等、様々な利用者層に向けた広報を行い、出店者や来場者増にも努めている。家庭ごみ減量課との連携については、もう少し周知など実施の仕方に工夫して、ぜひ継続し成果をあげてほしい。
- ・ 40周年の節目で出店、来場者数増加で喜ばしい。
- ・ 歴史がある泉を代表する事業だが、改善のために新しい視点での取組みが望ましい。広報はWEB掲載に挑戦しているため、更に市民に周知されるために開催日時、場所、出店者が最適なのか、改めて検討してほしい。

⑤ 泉ヶ岳利活用推進

- ・ 自然に親しみ、泉区の自然遺産の知名度向上にも寄与する事業として長く続けていたきたい。
- ・ 天候不良による自然観察会の中止は残念である。現地での催しに加え、天候に左右されない屋内での企画も併せて検討してみたい。
- ・ NPO、企業、学校等少しでも多くの団体や参加者を巻き込めるかが必要だと思う。また、清掃・見守りが市民・登山者に浸透するような運動ができるように工夫されると持続した活動になると思う。

⑥ 泉中央美化推進事業

- ・ 泉中央地区の環境保全や美化に努力し、美しい景観を演出する活動は評価できるため、継続を期待する。
- ・ 毎年綺麗なお花の植栽に感謝する。花苗を種から植えて経費を減らし、熱中症対策としてのお茶代に充てることは可能なのか。子どもたちも芽が出てくるのを楽しみに水造りをしてくれると思う。

⑦ 泉ヶ岳悠・遊フェスティバル事業

- ・ 泉ヶ岳の自然を楽しめる行事として定着してきた。天候に左右されるだけに一層の工夫をお願いする。
- ・ 事業費における助成金の割合について、来場者負担はどのように考えているか。ステージに屋根を付けるなどの案も出ているようなので、次年度以降も継続的に開催していくための方針を考えてほしい。
- ・ 渋滞問題の課題が解決されて良かった。
- ・ 企画のマンネリ化があると思う。本来の目的に沿って泉ヶ岳をもっと体験できる内

容、自然体験なども検討してみても良いのではないかと感じた。

⑧ 七北田川クリーン運動事業

- ・ 七北田川の自然に親しみ、環境整備を進めながら水生物の命の大切さを学ぶ良い行事だと思う。
- ・ 企業や他団体との共催により、より多くの担い手との連携と活動の広がりが可能となっている。財源確保の面でも継続可能性を考えるうえで参考になる活動である。
- ・ 身近な自然とふれあい学べる良い事業だと思う。今後も民間の支援などいただき、継続願う。
- ・ クリーン運動、アユの放流について、様々な企業から協賛を得ながらの実施は素晴らしいと思う。もっと多くの小学生に参加できる日程、協力を検討しても良いと思う。

⑨ 泉区民ふるさとまつり

- ・ クラウドファンディング等の工夫をするなど、努力していることは評価でき、夏の行事として未永く盛り上げていただきたい。
- ・ 警備体制や運営に関して、昨年度の課題であった部分について、ボランティアを活用するなどの工夫で乗り切っていて運営の努力が感じられる。より安全に楽しんでもらう市民参加型の事業になるよう、区民に協力を求めるアンケートや呼びかけを行っていくことも必要ではないか。

⑩ いずみのふるさと学事業

- ・ 作成した 500 部増刷分はどこに配布するのか。この冊子を活用した活動にしていく方向で運営にあたっていただきたい。
- ・ 探訪会はとても意義深い活動だと思うが、ぜひ参加者増を目指し広報や実施の仕方に工夫を加えていただきたい。冊子 500 部の活用について、ぜひ次年度の協力者、参加者を増やしていくことに使用してほしい。
- ・ サポーター養成に期待する。
- ・ ふるさと探訪会について、どれくらい新規の参加者を招き、語り継いでいくかが大切なことだと思うので、市民に広く参加してもらう方法を検討してほしい。
- ・ 冊子の検証が不足しているため、冊子のどこが良く、何が改善点なのか振り返って、更に良いものを目指してほしい。

⑪ 泉区民意識普及啓発事業

- ・ 活動自体は良いと思うが、その効果としての泉区民への意識の普及、向上、定着の検証の方法も考えていただきたい。

- ・ 「区民意識」,「区民憲章認知度向上」という目的が時代の流れとマッチしていないように感じる。活動内容は泉区の魅力を知り,発信する成果に繋がっているので,目的を見直し,より納得のいく事業にしていくと良いのではないか。

⑫ 青少年健全育成事業

- ・ 少年の主張大会の審査員はどのような方に依頼しているのか。毎年同じではなく,少し工夫してみることも大切だと思う。
- ・ 子ども達に多様な生き方,考え方を受容していくことを学ぶ機会を提供していくにあたり,まずは大人側の多様な物の見方が必要となる。
- ・ 企画に関しても様々な人たちの意見を聴き柔軟に取り入れていく姿勢を持っているのであれば良いと思う。
- ・ 「地球のステージ」開催について,成果が出ていると思うが,「代替不可」という考え方は,目的と手段が混在していると思う。目的達成には,もっと良いものはないかという姿勢で様々な方法を検討していただければ更に良い事業になるヒントになると思う。

⑬ 地域子育て交流会

- ・ 大切な活動に努力しているが,事業の開催を多くの人たちに PR する努力を今後もしていただきたい。
- ・ 子ども子育て支援に携わる団体の連携を深める活動としてとても重要だと思う。助成金に 100%頼っている状況から,今後,自主的な団体へと発展していくかどうか区としても問いかけをしていくことが必要ではないか。
- ・ 多くの方が参加されたフェスティバルについて,参加された一般の方同士は,その後,交流が生まれたのか検証してほしい。更に良いものになると思う。

⑭ 大学連携地域づくり事業（いずみ絆プロジェクト支援）

- ・ 区内の大学が一同に会する貴重な場として今後ますます活発になることを期待する。
- ・ 参加団体や事業テーマの固定化が課題とあるが,他市町村や都道府県の大学連携の取組みを学んだり,交流したりするような動きもあって良いのではないか。
- ・ フェスティバルの開催場所をもっとオープンなスペースで出来ればと思う。
- ・ 趣旨は大変魅力的だが,事業は単発で終わることがあると思う。通年で大学間・世代を越えた継続的な事業となるように運営を見直しする必要があると思う。

⑮ 大学連携地域づくり事業（大学・地域連携による課題解決事業）

- ・ 活動が高齢者の健康増進に貢献していることは評価できる。

- ・ 養成講座を修了した方の地域活動の場づくりまでセットで行わないと講座を受講して終わりということになってしまう。「人材の循環」を考えて事業を計画してはどうか。
- ・ 活動が活発で参加者も多く、とても意義ある事業だと思う。
- ・ 大学との課題解決についての連携が少ない。計画時から参加してもらい、問題・課題へアプローチすることが必要だと思う。

⑩ 泉中央地区活性化推進事業

- ・ 若者の新しいイベントとして定着していただきたい。
- ・ まちの魅力向上，賑わい創出の方法として，10 月のハロウィンイベントに限定せず，様々な可能性を検討してみることで，大学生や地域団体との連携に広がりが出るのではないかな。
- ・ 財源について集客が多いことから，出店料を検討して収支のバランスを見直してほしい。目的達成と検証が不足しているので，もっと良いものとするための振り返りをして今後につなげてほしい。

以上